

# 市政に関する

## 一般質問

令和8年第1回定例会の一般質問には、14人の議員が登壇し、市政に関するさまざまな議論が展開されました。

各議員が行った質問のうち、1問についての質問・答弁を通告順に掲載しています。

なお、「問」部分については、各議員の草稿によるものです。



### タブレット端末の家庭への持ち帰りについて

公明党 戸辺 滋

**問** 小学校低学年の児童がタブレット端末を毎日のように持ち帰ることは、発育段階の身体に多大な負担と影響を及ぼす恐れがあると考える。そこで、小学校低学年の児童を対象とした明確な負担軽減策を、各小学校に提示すべきと考えるがどうか。

**答** **教育長** 小学校低学年の児童がタブレット端末を毎日家に持ち帰ることについて負担となっているという声があることは、承知しています。令和8年度から始まる第2期流山市GIGAスクール



### 生物多様性の推進について

森田 洋一

**問** 豊かな自然を次世代に引き継ぎ、多様な生物が生息する環境の保全には、行政における生物多様性のプロの存在が不可欠である。本市の生物多様性の確実な保全のため、課題抽出や積極的提案ができる人材の育成が環境部門の急務ではないか。

**答** **環境部長** 現在、生物多様性のプロといえる職員はいませんが、担当職員は前任者からの引き継ぎや市内の自然環境に精通する自然保護団体の方々に日々学びながら業務を担っています。また、

主体的に学び、業務改善や課題解決に取り組む姿勢は重要です。人材育成の観点から、さまざまな部署の経験が必要であることも理解しています。一方、生物多様性は地域性やさまざまな生き物が関係しており、多くの知識を必要とする業務です。生物多様性を熟知した職員の育成は重要と考えるため、国や県が実施する研修会に参加するなど、生物多様性に関する知識が豊富であり、それを業務に生かせる職員の育成に努めてまいります。



### 認知症施策について

公明党 桑畑 伴子

**問** 希望を持って生活できるようにする手段として、神奈川県厚木市が行っている「認知症の人の希望を叶えるヘルプカード」を本市でも導入すべきと考えるがどうか。併せてヘルプマークやヘルプシールの活用促進を図るべきと考えるがどうか。

**答** **健康福祉部長** ヘルプカードについては、自分がやりたいこと、そのために周囲に助けてほしいことなどを記載することで、ご本人の安心につながるほか、理解者や応援者の輪が広がることも

あると考えるため、他自治体の活用事例などを参考に、取り組みを研究してまいります。また、議員ご指摘のとおり、現在配付しているヘルプマークやヘルプシールは主に障害のある方を対象にしているものであり、認知症の方へも申請があればお渡ししますが、今までは認知症の方からの申請はありません。今後は、認知症の方のヘルプマーク、ヘルプシール活用についても、周知を図ってまいります。



### 児童・生徒の通学支援策について

流政会 青野 直

**問** 児童・生徒の登下校時における見守りや同行・行動介助など、何らかの形の支援がなければ安全に登下校することが難しい児童・生徒への支援策について、当局の見解を問う。

**答** **学校教育部長** 現状では、保護者に送迎の協力をいただいている場合があります。身体的、精神的負担があることを承知しています。また、近隣の自治体では、松戸市や柏市が福祉サービスの一環として通学等支援を実施していること

も把握しています。一方で、登下校時の通学路における日常的な見守り活動などは、文部科学省より平成31年に示された学校と教師とが担う業務に係る3分類においても、学校以外が担うべきと明記されていることなども踏まえ、登下校時に移動支援できる人材を市教育委員会が配置することは考えていません。通学支援は福祉サービスであることから、健康福祉部と情報共有を図ってまいります。



### 子ども参画と市民参加の一体化について

矢口 輝美

**問** ①子ども会議や若者まちづくりプロジェクトの成果への評価は。②タウンミーティング形骸化の声をどう受け止めるか。③市民参加条例や自治基本条例を踏まえ、子どもと大人一体での市民参加をどう実現するか。

**答** **子ども家庭部長** ①子どもや若者が主体的にまちづくりに関わってほしいことも、若者と一緒のまちづくりを具現化するものと捉えています。②参加者の意見・提案には実現の

有無をその場で答えており、実現できる場合は市政への反映を実感できると思います。実現が難しい場合は理由説明と代替案提示に努めています。③自治基本条例ではこの意見表明の機会の保障を規定し、市民参加条例では子どもも大人も区別なく全ての市民に市民参加の機会を保障しています。事業内容や性質に応じた方法で市民に周知し、有効な意見を引き出し政策に取り込めるよう、今後も庁内周知に取り組みます。



### 病児保育事業の現状と今後の充実について

流政会 小沢 えみり

**問** 本市の病児保育事業における、①令和5年度から令和7年度までの年度ごとの延べ利用人数は何人か。②当日キャンセルは何人か。③病児保育の受入枠拡充や新たな施設整備、事業者支援について今後の方向性をどのように考えているのか。

**答** **子ども家庭部長** ①令和5年度が531人、令和6年度が613人、令和7年度が12月までで492人です。②令和5年度が127人、令和6年度が140人、令和7年度が12月までで126

人です。③子ども計画策定時の令和6年の調査では、回答者697人のうち「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」とは思わない「は55・5%で、そのうち利用したいと思わない理由は、「他人に見てもらいたくない」「不安」「53・2%、「保護者が仕事を休んで対応する」が52・2%でした。整備に緊急性を生じているとの認識はありませんが、過大な整備にならず、かつ需要に対応できるように検討を続けます。



### 本市の高齢者施策について

公明党 岡 明彦

**問** 高齢者が健康・生きがい・交流を享受し、世代を問わず楽しめ、多世代交流や通いの場の創出となる、電子機器を用いた娯楽・競技・スポーツであるeスポーツの活用を積極的に推奨し、普及啓発や市民への周知を促進すべきではないか。

**答** **健康福祉部長** 通いの場に対しては、事例紹介や案内を行うことで、興味を持った方が自己判断で触れ合っていくものだと考えています。議員からもご案内いただきましたが、2月22日に生

涯学習センターで行われた流山市シルバー人材センター主催の「シルバーフェスタ」にて老人クラブ事務局のゲーム機を体験していただくブースを設置し、興味を持った方が体験する機会を設けました。引き続き、老人クラブや高齢者ふれあいの家などの活動の中で、イベント時に体験の場を設けることで、普及啓発や周知に努めてまいります。



議員が草稿を作成した記事において、特定の名詞の表記（「障害者」を「障がい者」と表記するなど）については、議員本人の意向を尊重して掲載しています。そのため、異なる表記が混在する場合があります。予めご了承ください。